

2021 年度事業計画（中高）

<p>1. 基本方針</p> <p>聖書に基づくキリスト教精神の原点にたち、常にこれを意識しながら教育活動にあたる。生徒の評価を点数や偏差値のみにするのではなく、その生徒の自己肯定感・自己効力感を高めることにつなげるものにする。毎日の生活が、家族・教師・友人を含め周りの者と安心感を持てるつながりができる環境とする。生徒が、平和を創ること、隣人につながることを生涯を通して希求する者となることを教育目標とする。</p> <p>「学ぶ」……主体的に楽しく学ぶ。「認める」……他者を認め、自分を認める。「つながる」……他者や社会とつながる。以上の3つのキーワードを設け、それぞれ、「主体性の伸長」「人間理解の深化」「グローバルマインドの育成」をカリキュラムポリシーとする。この新しい教育課程の構築をより具体的なものとし、その実践を成果につなげるように取り組む。</p> <p>いよいよ少子化の影響などのため、中学入試の厳しさが顕著になってきているので、将来の中学高等学校像を検討し、迅速な対応ができる体制をつくる。</p>			
<p>2. 具体的アクション</p>			
第2次中期計画（行動計画）	2021 年度事業計画	目標達成のための手段等	具体的な目標（数値目標）
<p>(1) 教育理念の実践と内部質保証の実質化</p> <p>ア キリスト教主義教育</p> <p>a. 礼拝を守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の礼拝を丁寧に守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ホール礼拝、放送礼拝、オンライン礼拝で、生徒に、静粛・黙想・傾聴の姿勢を守らせる。 キリスト教行事の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教強調週間の持ち方を検討し、より良いものにする。
<p>イ 新しい教育課程の構築</p> <p>a. 課題研究カリキュラムの実践</p> <p>b. 育成すべき資質・能力の設定</p> <p>c. 一人一台 PC の活用</p> <p>d. グローバル教育の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探求の時間」の充実 EP（Extensive Program）講座の拡充 教科横断的な取り組みの推進 PS（Peace Studies）の学びの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究教育検討委員会の指針による実践をし、課題研究を通して育成できる力を構築する。 EP 講座を生徒が主催するのなど形を増やし、新しい挑戦をする。 高校修学旅行の分散派遣の可能性を探る。 外部機関との連携を拡げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の所属する集団の中での評価のみでなく、生徒一人ひとりの学ぶ力（生きる力）を評価できないかを模索する。 PC の活用で育成できる力は、上記のことを可能にすると考え。一定の集団・時間・対象などの従来の枠を超えて、生徒を見ること、生徒の声を聴くことから始める。 PS での学びを生徒の主体性を持ったものにするのが今の改革のゴールである。一方、全体の到達度などとの両立が難しい。これに取り組む。

<p>ウ 生徒支援の充実</p> <p>a. 集団に適応できない生徒の支援</p> <p>b. 基本的な生活習慣の確立</p> <p>エ 広報・入試対策</p> <p>a. 私学受験者数の確保</p> <p>b. 入試問題の適正化を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の充実 ・一人一台 PC 活用充実のためにも、SNS 使用のモラルを高める。 ・有効な広報活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談会議の指針による実践。 ・オープンスクールの回数を増やす。ICT 機器を利用する。 ・基本方針に則った教育の意義を分かりやすく発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ルームの在り方を検討する。 ・欠席多数による転出生徒の減少。 ・生徒保護者アンケートの「規則遵守」評価数値の上昇。 ・受験者の増加。 ・公立中高一貫校との差別化。 ・受験生の日頃の活動を評価するなど、独自の入試を模索する。
<p>オ. 進路実績を伸ばす</p> <p>a. 難関大学の実績を伸ばす</p> <p>b. 推薦入試等への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PC 利用を含め、生徒の学習習慣の定着を図る。 ・課題研究や日頃の放課後の活動を通して得た力をアピールできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の家庭での学習習慣確立が大きな問題となってきた。この対応を早急に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東大京大 4 名以上。国公立医歯薬 8 名以上。 ・保護者の進路に関する学校への要求が、多岐に渡っている。それへの共通した対応は、学力の確保しかない。一人ひとりを支援する体制をつくる。 ・キリスト教主義の大学との協定を図る。